

JP128 吉野川下流域 (よしのがわりゅういき)

徳島県：徳島市、鳴門市、小松島市、松茂町、北島町、藍住町

位置	N 34° 05′ E 134° 35′
----	----------------------

面積	3,800ha
----	---------

環境構成【河川／干潟】

四国の瓶ヶ森（石鎚山系）に源を発し、中央構造線に沿って東に流れる、長さ 193km、河口幅 1.3km の四国第一の河川である。

また、古くは「四国三郎」とも称され日本でも有数の大河川である。このサイトは両岸と河口から 10.5 km にある名田橋までが領域となる。

広域水面を囲む両側の河川敷にはスポーツ用グラウンド、畑地、水田、竹林と、ヤナギ、センダンなどの樹木が少しある。そして重要な環境である中洲、干潟、

砂洲、ヨシ原などがある。河口の島状となる砂質性干潟は最大干潮時で 60ha となる。写真提供：三宅武



また、河川敷のヨシ原の周囲は泥質性干潟となっている。底生生物の中でカニの種類と数が多く、特にシオマネキは全国屈指の繁殖地である。この豊富なカニ類を餌にする大型シギ・チドリ類が数多く飛来する。

選定理由

A4i	ヒドリガモ
-----	-------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

<保護指定の内容>

県指定鳥獣保護区（大神子）

<その他>

東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

保全への脅威

- ・大規模な護岸修復工事中
- ・アナジャコ採りの水流ポンプによる干潟破壊

- ・柿原堰から吉野川北岸大規模農業用水取り込み口の工事中
- ・吉野川河口に 2012 年 4 月 「しらさぎ大橋」が完成し、夜間に欄干内に組み込まれた LED 照明が問題である。車走行時に LED 照明を遮断しながら長い生物のような動きが生まれ、さらに騒音を伴う。カモ類全体が少なくなった。
- ・ヒドリガモは全体では大きな変化はない。河口部エリアから上流部、今切川、旧吉野川に移動していたと思われる。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
全国ガンカモ調査—吉野川大橋（バイパス橋）から河口内
1 月 15 日 全国ガンカモ調査（環境省）
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある
詳細、具体例等：しらさぎ大橋完成による夜間に欄干からの LED 照明、走行中の騒音と振動
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
悪い（40～70%が最適の状態）しらさぎ大橋～河口部
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- ・環境管理：実施者（国交省徳島国道河川事務所、徳島県生活安全課）
内容：対応する行政機関と協議、公開会議において環境情報（シギチドリを含めた野鳥の増減）の交換
- ・外来種のコントロール：実施者（国交省徳島国道河川事務所）
内容：河口中州でナルトサワギクの抜き取り（毎年）
生物多様性とくしま会議：ジャンボタニシ、ナルトサワギクの県内分布調査
- ・環境教育活動：実施者（日本野鳥の会徳島県支部）
内容：
河口の野鳥観察会（城東小学校 4 年生 60 名、毎年 12 月）、住吉・城東公民館野鳥観察会（年 3 回）、若者・一般家族連れ 120 名を 2 回（2014 年実施）（トヨタ、徳新、日本野鳥の会徳島県支部）、一般参加も OK の探鳥会（年 12 回実施）、自然観察会の実施（とくしま自然観察の会）
- ・モニタリング調査：実施者（日本野鳥の会徳島県支部）

内容：ホウロクシギ調査（3月～5月 総数）、ハマシギなどの足環調査（春秋）、
河口干潟と流通港湾の底生生物調査（3ヶ月に1回）、鳥獣生息状況調査における
ガン・カモ・ハクチョウ類調査などの調査活動（徳島県など）

その他：実施者（日本野鳥の会徳島県支部）

- ・行政等に対する要望活動（保護区の設定の要望、ラムサール指定地のための署名活動）
- ・地元の住吉公民館ホームページへ「住吉干潟の生き物」として季節の野鳥情報を提供

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・日本湿地ネット
- ・ラムサールネット日本
- ・日本自然保護協会
- ・生物多様性とくしま会議
- ・とくしま自然観察の会
- ・徳島県自然保護協会
- ・吉野川ひがたの会
- ・かわがきの会
- ・里山の風景を残す会

見られる鳥

この河口干潟では 52 種のシギ・チドリ類が見られ、冬鳥としてのハマシギ、ダイゼン、ミユビシギについては 30 年間で数の減少は見られない。しかし、旅鳥 49 種は全て減少している。ホウロクシギも少なくなり 2010 年春の渡りでは約 80 羽が通過した。汽水域の野鳥は 199 種の記録があるが、三分の一は徳島県の準絶滅危惧種より上のランクであり、さらに普通種であるシギ・チドリの数も減少している。その中でツクシガモ、ズグロカモメ、クロツラヘラサギ、コクガン、チュウヒなどは毎年、少数の飛来がある。

留鳥	カワウ、ハヤブサ、ミサゴ、トビ、コサギ、ダイサギ、シロチドリ、ムクドリ、ヒヨドリ、ヒバリ、セッカ、キジバト、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ホオジロ、カルガモ、ウミネコなど
夏鳥	カラシラサギ、コチドリ、オオヨシキリ、コアジサシ、ササゴイ、ツバメ、アマツバメ
冬鳥	ヒドリガモ、マガモ、コガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ヨシガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ホシハジロ、ツクシガモ、ウミアイサ、ハ

	ジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハマシギ、ミユビシギ、ダイゼン、ズグロカモメ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオタカ、ハイタカ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ノスリ、コミミズク、ツグミ、トウネン、タヒバリ、ジョウビタキ、オオジュリンなど
旅鳥	メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ウズラシギ、キリアイ、サルハマシギ、オバシギ、コオバシギ、エリマキシギ、イソシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、タシギ、セイタカシギ、サシバ



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Internap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community